

一般環境のアスベスト調査 経年変化

単位：本/L

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
豊洲（深川第五中学校）	<0.11	<0.057	<0.057	<0.057	<0.056	<0.056	<0.056	0.070	0.056	<0.056	0.056	0.056	0.070	0.056	0.070	<0.056	0.056	<0.056	0.070
亀戸（青少年交流プラザ）	<0.11	<0.057	<0.057	<0.057	<0.056	0.070	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056	0.056	0.12	0.056	0.10	0.056	<0.056	<0.056	0.056	0.056
東陽（区本庁舎）	<0.11	<0.057	<0.057	<0.057	<0.056	0.070	0.056	0.056	0.070	<0.056	0.056	0.081	0.10	0.070	0.110	0.070	0.070	0.14	0.18

※ WHO(世界保健機関)によると世界の都市部の一般環境中のアスベスト濃度は1～10本/L程度で、この程度であれば健康リスクは検出できないほど低いとされている。

※ 平成22年のモニタリングマニュアル改定より、総繊維数濃度を測定。また、検出下限値の表記が変更となった。

※ 各測定地点につき、3日間連続捕集を一連の測定としているため、3日間の総繊維数濃度を幾何平均したものを当該地点の総繊維数濃度とする。

※ 平成28年度及び令和元年度は、青少年交流プラザが工事中のため亀戸図書館で調査を実施した。

平成18年度より事業開始

平成23、24年度の結果報告では、亀戸・東陽の結果に「<」が付いていたが、3日間のうち1日でも1本以上のカウントがあれば「<」は付けられないこととする。

つまり、3日間全てで1本のカウントも無かった場合のみ「<」を付けて<0.056(検出下限値)とする。